



開催協議会名	令和5年第3回隠岐の島警察署協議会		
開催日時	令和5年9月28日（木）午後1時30分から午後3時00分まで		
出席者	協議会委員	4人（松岡会長、山根副会長、柳原委員、石川委員）	
	公安委員会	1人（金崎公安委員長）	
	警察署	8人（署長、次長、生活安全刑事課長、警備課長等）	
会議・協議	署長からの報告	報告事項	万引き防止の具体的な対策
		説明概要	<p>【生活安全係長】</p> <p>万引き防止対策について資料を配布し、対策について説明した。</p>
		答申（意見等）	<p>【委員意見1】</p> <p>万引き防止のため、死角になりやすい場所に防犯カメラやミラーを設置することも対策の一つであるとの説明があった。店外にも店内にも防犯カメラの設置は必要だと思うが、まずは店外に設置されれば、店内で何かあった場合でも、外に出てきた時点で確認できるのではないかと。事業所に対して、防犯カメラの設置などの取組を啓発していく必要があると思う。</p> <p>【委員意見2】</p> <p>万引きの件数は、実際は、もっと多いのではないかと。当事者同士の話し合いで解決されているのかもしれないし、警察まで通報されていないのかもしれないが、検証はされているのか。</p> <p>【警察署回答1】</p> <p>被害届が出されていないものに関しては、警察が認知するのは難しい状況である。資料にある認知状況は、被害届が出され、検挙された数であるので、実際に発生した数ではない。</p> <p>【委員意見3】</p>

		<p>地元の小売店などは万引きを認知しても、人間関係を気にして警察に申告しないのかもしれない。</p> <p>【警察署回答 2】 狭い町だからこそ、人間関係を気にして万引きがなかったことにするのはなく、警察や学校と連携して保護者も巻き込んで万引き防止対策に取り組む必要がある。</p> <p>【委員意見 4】 万引きしようと思って店内に入ってきた子供たちがいたとしても、大人が挨拶などの声掛けをすることで、万引きを思いとどまることあるのではないかと。 地域の方が声掛けをするなど努力すれば、健全育成につながるのではないかと。</p>
	<p>署長からの 諮問</p>	<p>報告事項 説明概要</p> <p>飲酒に起因する交通事故の発生状況</p> <hr/> <p>【交通係長】 島根県内及び隠岐の島町内の飲酒に起因する交通事故の発生状況を説明</p>
<p>体 験</p>	<p>諮問に先立ち、飲酒運転体験ゴーグルを使用しての歩行体験、反射神経測定器による反射神経年齢の測定を体験</p>	
<p>写 真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">【飲酒運転体験ゴーグル】</p>	



【反射神経測定器】

<p>署長からの 諮問</p>	<p>答申（意見等）</p>	<p>【委員意見 1】 飲酒をした後は、飲酒運転体験ゴーグルをして歩いているときのようにフラフラして歩いているのだと疑似体験することができた。</p> <p>【委員意見 2】 飲酒事故が発生するのは深夜が多いのか。</p> <p>【警察署回答 1】 飲酒運転は深夜のイメージがあるかもしれないが、深夜に限らず日中も発生している。飲酒先も、飲食店だけではなく、自宅で飲んで運転するケースもある。</p> <p>【委員意見 3】 飲酒運転する者は、警察は夜だけ飲酒取締りをしているイメージを持っているのではないのか。</p> <p>【警察署回答 2】 時間も場所も流動的に飲酒運転取締りを実施する計画である。</p>
	<p>自由意見</p>	<p>【委員意見 1】 昨年の死亡事故から 1 年経過した。現場には横断禁止の横断幕を設置していただき、効果が上がっていた。しかし、今は以前と同じように横断する歩行者が多くなり、効果がなくなって</p>

しまったように思う。
警察官がいない時に渡っているのかもしれないが、現在の対応状況はどのようになっているのか。

【警察署回答1】
現場は、交通事故が多発する箇所、病院やスーパーなどがあり、多くの人の往来があることから、集中的に取締りを行っている。
取締り効果も出てきていることから、今後も引き続き街頭活動を継続する。

そ の 他 金崎公安委員長から協議会冒頭の挨拶及び総括をいただいた。





【公安委員長総括】